
僕のはなしを、きいてくれる？ episode003

夏山 僕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のはなしを、きいてくれる？ episode003

【コード】

N9334N

【作者名】

夏山 僕

【あらすじ】

僕に話しかけてくる「僕」の正体は……。第三話

週に一度の休みといえば、趣味のゲームを一日中することが多い僕
だけど、

コレじゃいけないと思い、出かけることに決めた。

何があるってわけじゃないんだけど、なんだか春はウキウキする。
どうせだから、近所の桜でも見に行こうと思い、神田川まで歩くこ
とにした。

鼻歌で、スピッツのチェリーを口ずさみながら歩いていると、
何だか急に季節はずれのチェリーが食べたくなった。

都電の学習院下駅の近くにあるスーパーだったら

春でもチェリーを買えるだろうと思い僕は店に行った。

2階の果物売り場に着くと、案の定、チェリーがあった。

お金に困っているわけじゃないけど、衝動買いをするのには少々高
い。

でも、気持ちはもう、チェリーを食べたがってる。

どうしようか、しばらく首をひねっていると、声が聞こえてきた。

「ねえねえ。オヂサン。僕たち、私たちのはなしを、聞いてくれる
？」

いつものが始まった、と思いつつチェリーの方を見ると
繋がったふたつのチェリーが僕の方を見ていた。

『チェリーと話しをしたこと、ないんだけど大丈夫なんだよね？』

「うん。僕たち、私たちのはなしを、聞いてくれればいいよ。」

それよりも、僕たち、私たちを良く見て！チェリーじゃなくて、さくらんぼって書いてあるでしょ！」

『あ、そっか、それはごめんね、さくらんぼさんたち。』

でも、チェリーとさくらんぼってどこが違うの？」

「チェリーと言ったら、やっぱりスピッツだし、さくらんぼと言ったら、大塚愛ちゃんでしょ！」

『ああ……。って答えになってないような……。』

「冗談だよ、オチサン。シャレが通じないなあ。

チェリーって言ったら、アメリカンな感じで、さくらんぼって言ったら日本って感じでしょ。

アメリカンさくらんぼとは言わないし、山形チェリーとは言わないでしょ？」

『うん。説得力があるような、ないような……。』

「ま、深く考えないでいいよ。

ところで、オチサンは、僕たち、私たちを買おうかどうしようか、迷ってたでしょ。」

『うん。なんだか無性に君たち、チェリー……。じゃなくて、さくらんぼを食べたくなっただ。』

「それって、けっこう珍しいよね。僕たち、私たちって、生で食べるこつて少ないよね？」

食べる時って、缶詰のシロップ漬けになってるものじゃない？」

『そうだね。たとえば、ファミレスのパフェに乗っかってたり、クリームソーダに沈んでたり……。』

なんか、添え物っていうか、おまけっていうか……。『
「そうなんだよ。僕たち、私たちはおまけになっちゃうことが多いんだ。」

赤くて、小さいから、色どりのいい飾りにされちゃうんだ。

人によっては食べないってことも多いしね。」

『もったいないね。と、いいつつ僕も気分によっては残しちゃうけど……。』

「いいんだ。僕たち、私たちは、見たくて楽しんでもらえればね。見た目はかわいいでしょ？」

「かわいいから、歌の題材になったりするんだよ！」

『うんうん。ふたつ繋がった形がかわいくてね。』

「そうそう、双子ちゃんのことをチェリーに例えたりもするよね。」

「そうだね。それに経験のない男の子のことを、チェリーボーイって言ったりね、ふふふ。」

『・・・・・・・・・・。あ、いや、経験がないわけじゃないんだよ。』

「でも僕も長いことチェリーだなんて思ったりして・・・・。」

「ゴメンね。オチサンにとってはデリケートゾーンだったんだね。」

『いや。いいんだ。僕にもいけないところがあるから・・・・。』

「・・・・・・・・。」

『ごめん。ついつい暗くなってしまったね。』

「そういえば、黄色いさくらんぼっていう歌もあったよね。」

「わ〜かいむすめが、うっふん なんてね。なつかし〜〜〜。」

「僕たち、私たち・・・・。知らない。やっぱりオチサンはオチサンなんだね。」

『ち、違っつて！俺たちひょうきん族でやってたのを覚えてて・・・・。』

・・・・・・・・

『ひょうきんぞく???なにそれ?』

『・・・・・・・・。』

「・・・・・・・・。」

『あ・・・・・・・・。』

気がつけば、チェリーは・・・・さくらんぼはただのさくらんぼに戻っていた。

僕が錯乱している間に・・・・。なんちって・・・・。

そろそろ彼女が欲しいな……。さくらんぼみたいにならな
つみたいな……。

肌寒い風が吹く中、2分咲きの桜を見ながら、ひとりそう思った。
ヘタと種でいっぱいになったプラスチックのケースを手に持ちなが
ら……。

つづく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9334n/>

僕のはなしを、きいてくれる？ episode003

2010年10月12日02時17分発行